

トチノキ

Aesculus turbinata ムクロジ科トチノキ属

森のなかで出会う楕円形の大きな葉っぱの木は、トチノキかホオノキが多いです。トチノキの葉は大型の掌状複葉で、小葉は5～7枚。中央の小葉は長さ20cm～40cm。縁に細かい鋸歯があります。ホオノキは単葉が集まって枝先についています。縁が滑らかで鋸歯がないことで見分けられます。

落葉高木。冷温帯の湿潤で肥沃な土地を好む木です。春から初夏に円錐形の大きな花序を上向きに咲かせます。蜜はたいへん美味しくて蜜源植物として有名です。トチノキは受粉が終わった花は中の色が黄色から赤に変わります。これは主に花粉を運んでくれるマルハナバチだけに見分けられる合図で、ほかの昆虫は赤い花にも訪花しますが、マルハナバチは黄色を目指してやってきます。

秋に出来る実は、クリのように大きく美味しそうな実ですが、アクが強く、そのままでは食べられません。トチの実のアク抜きは、非常に時間と手間がかかり別格に難しいとされていますが、縄文時代から食用にされており、「栃餅」はマタギの貴重な冬山の携帯食でもありました。いまでも一部の地方でお餅や煎餅として利用されています。

冬芽は親指くらいで、ベトベトした樹脂をくっつけて寒さや虫から守っています。てかてか光っていてとても綺麗です。中には葉や花芽などがたくさん詰まっていて、春の芽吹きの様子は、まるでエイリアンが出てくるようです。

材は淡黄褐色で光沢があって木目が美しく、加工しやすいため、家具材、器具材、漆器木地、彫刻材、こね鉢としても利用されています。

トチノキは、教科書にも出てくる『モチモチの木』のモデルの木として有名。その美しさから街路樹や公園などにもよく植栽されている身近な木です。



【左】トチノキ(掌状複葉) 【右】ホオノキ(単葉)



【芽吹きの様子】



【冬芽】



【花】

【花(拡大)】

左の黄色が受粉前、右の赤が受粉後



【若い実】



【トチの実】

上が殻、下が実